

## 為替週間展望 = ドル円は堅調な流れが継続か

[7月5日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		6月28日～7月2日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	110.77	111.66(2)	110.42(30)	111.59	+0.84
ユーロ・ドル	1.1937	1.1945(28)	1.1838(1)	1.1841	-0.0094
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	28,783.28	-282.90	日本10年債利回り	0.048	+0.001
ダウ平均株価	34,633.53	+199.69	米10年債利回り	1.458	-0.066
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 5日 豪5月住宅建設許可件数、豪5月小売売上高  
独6月非製造業PMI確報値  
ユーロ圏6月非製造業PMI確報値  
英6月非製造業PMI確報値
- 6日 日本5月勤労者世帯家計調査  
豪中銀(RBA)政策金利  
独5月製造業受注指数  
独7月ZEW景況感指数  
ユーロ圏5月小売売上高  
米6月サービス業PMI確報値  
米6月ISM非製造業景況指数
- 7日 日本5月景気動向指数速報値  
独5月鉱工業生産指数  
カナダ6月Ivey購買部協会指数  
米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨(6月15～16日分)
- 8日 日本5月経常収支  
スイス6月雇用統計  
独5月貿易収支、独5月経常収支  
米新規失業保険申請件数
- 9日 中国6月消費者物価指数、中国6月生産者物価指数  
英5月鉱工業生産指数、英5月製造業生産指数、英5月貿易収支  
カナダ6月雇用統計  
20カ国・地域(G20)財務相・中央銀行総裁会議(10日まで)

【前回のレビュー】6月28日の週は30日の米6月ADP雇用統計、1日の米6月ISM製造業景況指数、2日の米6月雇用統計など注目度の高い経済指標の発表がある。こうした経済指標が良好な結果となった場合、ドル円は110～111円台で堅調な推移になるとした。

【ドル円は111円台に乗せた後も堅調な推移】

15～16日の米連邦公開市場委員会(FOMC)でのタカ派的なスタンスを示されたことによる混乱は徐々に落ち着きを見せた。米国株についてはNYダウが高値圏でもみ合いながらおおむね堅調に推移しており、ナスダックやS&P500は最高値圏にある。

米10年債利回りも落ち着いた動きを見せている。6月24日にバイデン米大統領が

超党派の上院議員と1兆ドル規模のインフラ投資法案に合意したと発表した。その影響で米国の景気拡大、国債増発に伴う需給の悪化が警戒されて、米10年債利回りは1.524%前後まで上昇した。ただ、6月28日以降はおおむね1.45~1.48%前後での推移となった。

6月25日に発表された5月の個人消費支出（PCE）デフレーターは前年比+3.9%、コアPCEデフレーターは前年比+3.4%となり、いずれも市場予想と同水準となった。6月10日に発表された5月の米消費者物価指数が市場予想を上回ったことで、PCEデフレーターも上振れ期待が根強かった分、市場予想との乖離がなかったことで発表後のドル円は落ち着いた動きとなった。

ドル円は6月24日には111.12まで上昇したものの、111円台では上値は重く、その後は110.50台までじり安で推移した。6月30日には、6月の米ADP雇用統計や5月の中古住宅販売製薬指数が良好な結果となったことなどから、24日の高値111.12に顔合わせした。

7月1日にはドル円は一段と上昇して、111.50台を超える上昇をみせている。このころはドルインデックスも上昇傾向にあり、92を回復した後は92.60超まで上値を伸ばしている。堅調な米国株や良好な経済指標がドル買いの動きにつながっている。

今後は米経済指標や要人発言に左右されやすい展開とみられる。米経済指標の良好な結果が続くようだと、ドル買いにつながることとなりそうだ。6月30日には、カプラン・ダラス連銀総裁は「資産購入ペース縮小の開始は早い方が良いとの見方を支持する」「資産購入ペース縮小が迫っていることは周知されており、問題は時期になっている」「資産購入ペース縮小は段階的になるだろう」などと述べ、量的緩和の縮小（テーパリング）に前向きな姿勢を示した。

テーパリングやその議論開始に前向きな姿勢を見せるFOMCメンバーの発言が目立つ中、米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長やニューヨーク連銀のウィリアムズ総裁は、インフレは一時的で、利上げはまだ先であるとの認識を示している。こうした当局者の発言に市場は振り回されやすいとみられる。

5日からの週では、7日発表の米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（6月15~16日分）が注目される。6月には経済成長率見通しや物価見通しが3月から上方修正されて、政策金利見通しでは2023年末までに2回利上げが中央値となるなど、タカ派シフトが見られた。こうしたタカ派シフトやテーパリング開始に向けた議論がどのようになったのかなどが注目される。

米経済指標や要人発言などを背景にドルは底堅い動きを継続するとみられる。テーパリングに関する前向きな発言が出るたびにドルは下値を支えられて、ドル円は堅調な流れが継続するとみられる。111円台を固めて、112円台を視野に入れる展開か。ドル円の目先の予想レンジは、110.00~112.75円。

上記以外の今後の日米の経済指標やイベントとしては、6日に日本5月勤労者世帯家計調査、米6月サービス業PMI確報値、米6月ISM非製造業景況指数、7日に日本5月景気動向指数速報値、米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（6月15~16日分）、8日に日本5月経常収支、米新規失業保険申請件数などがある。

#### 【ユーロドルは上値重く推移か】

ユーロドルは6月21日に1.18台半ばまで下落した後、下げ渋りを見せた。ただ、1.20接近では上値を抑えられて再び下げに転じている。ドルが堅調に推移していることに加えて、ユーロ圏で新型コロナウイルスのデルタ株（変異種）の感染拡大が警戒されている。

今後、ユーロ圏の経済指標が改善に向かうとユーロを下支えしそうだが、デルタ株の感染も重くのしかかる。また、ユーロ圏よりも米国の景気回復度合いが強いとみられ、ユーロドルは上値重く推移しそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1650~

1. 1975ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、5日に豪5月住宅建設許可件数、豪5月小売売上高、独6月非製造業PMI確報値、ユーロ圏6月非製造業PMI確報値、英6月非製造業PMI確報値、6日に豪中銀（RBA）政策金利、独5月製造業受注指数、独7月ZEW景況感指数、ユーロ圏5月小売売上高、7日に独5月鉱工業生産指数、カナダ6月IVEY購買部協会指数、8日にスイス6月雇用統計、独5月貿易収支、独5月経常収支、9日に中国6月消費者物価指数、中国6月生産者物価指数、英5月鉱工業生産指数、英5月製造業生産指数、英5月貿易収支、カナダ6月雇用統計などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。